

【シンポジウム】

基調講演につづくシンポジウムでは『スポーツが元気にするまちづくり』をテーマに活発な議論が交わされました。

コーディネイター

原田 宗彦 氏

【大阪体育大学大学院教授】

シンポジスト

柴田 博 氏

【朝日放送 アナウンサー】

〔スポーツでまちを元気にするための
マスコミとメディアの役割〕

僕にとってスポーツとは体の健康以上に心の健康のためのものです。たとえささやかな挑戦であっても「目標があるから耐えられる」と思いながら、いろんなスポーツに挑戦を続けています。それらは、僕自身の生活すべてにつながっていくと思えるから。

そう！心の健康は僕の人生にとってとても大切なこと。



根木 慎志 氏

【シドニーパラリンピック日本代表男子車椅子バスケットボールキャプテン】

〔すべての人が、スポーツを通して
元気に暮らせるまちづくりについて〕

学生時代から競技者としてスポーツに取り組んできましたが、国際大会や講演活動を通じて、現在は「見るスポーツ」「聞くスポーツ」「するスポーツ」と様々なスポーツの楽しみ方があることを知りました。

また、私自身のテーマである「出会った人と友達になる」、スポーツを通じてすべての人達が友達になり、元気に幸せに生活できるまちづくりを考えたいと思います。

松岡 宏高 氏

【びわこ成蹊スポーツ大学講師】

〔まちを元気にするスポーツボランティアへの期待〕

生涯スポーツの振興という、健康やリフレッシュのために気軽に行うスポーツが中心になりがちですが、個々の能力を最大限に発揮することを目的とした「競技スポーツ」、それを観戦者として楽しむ「見るスポーツ」も含めて考える必要があります。人々のスポーツへの関心は、昨年のW杯での盛況からもわかるように非日常的レベルではかなり高くなっています。

今後は、イベント参加や観戦をきっかけにして、人々が日常的にスポーツに関わることができる環境を整えていくことが必要ではないでしょうか。

今回は、スポーツ環境づくりの中でも、特にヒトづくりについて考えてみたいと思います。

松澤 淳子 氏

【(財)自由時間デザイン協会主任研究員】

〔地域を活性化するクラブづくりの課題と問題点〕

「総合型地域スポーツクラブ」等、地域でのスポーツクラブづくりがスポーツ振興やまちづくりの視点から注目を浴びています。全国各地でクラブづくりへの取り組みが盛んに行われていますが試行錯誤の状態です。今日的な「クラブ」づくりとは何か、なぜ地域の活性化に「クラブ」が期待されているのか、現在のクラブづくりの問題点は何か、今後の課題等について、コミュニティや個人ニーズの視点から考えてみたいと思います。

